今回はラテン系言語徹底比較ということで、実質的に、全てのラテン系言語合計の発音・文法をマスターできます。8億人のラテン系ネイティブスピーカーが存在します。第二言語としてはもはやその3倍に相当します。

まず、発音ですね。時間で切った見出しをつけているので、自分が興味がある言語だけ見てもらっても大丈夫です。

まずポルトガル語。

次にガリシア語。

次にカスティリャ語、もしくはスペイン語。

次にカタラン語。

次にオクシタン語。

次にフランス語。

次にフランコプロバンス語。

次にレトロマンス語。

次にイタリア語。

次にサルデーニャ語。

最後にルーマニア語とマケドルーマニア語。

そして文法に入ります。コツは、「変化表暗記→用法を例文でつかむ」をただ繰り返すだけです。

【歴史】

これは飛ばしてオッケーです。はっきり言って言語学習にはあまり関係ありません。

世界史がわかる人はこちらの動画を見るととても理解が深まると思います。(History of the Romance Languages)

前提として、ローマ帝国が地中海全域に広がったと。そして、言語というのは離れる分だけ伝わりづらくなっていくものなんですね。あの中国語だって国内でも通じないところは沢山あるんですから。

ということでまずラテン語からアフリカンロマンスとサルディーニャ語が違う言語のような振る舞いをするようになります。

次に古典ラテン語は後ラテン語へと変化し、イタロロマンス、西ロマンス、東ロマンス、パンノニアンロマンスにも分かれて行きます。

更に後ラテン語は中世ラテン語へと変化し、イタロロマンスはそのままなんですが、西ロマンスはイベリアンロマンスとガロロマンスに分かれ、東ロマンスが前ルーマニア語とマケドルーマニア語へと分かれます。

ここから最も複雑に分かれます。

イタロロマンスは4つの方言へと分かれます。

ガロロマンスはウイ語とオック語とアルピタン語に分かれます。

イベリアンロマンスがガリシア・ポルトガル語、カスティーリャ語、これは俗に言うスペイン語です、とモサラベ語、これはアラビアの影響を大きく受けたロマンス諸語の総称です、に分かれます。

パンノニアロマンスはここで消滅します。

中世ラテン語がルネサンスラテン語と呼ばれるようになります。

イベリアロマンスからカタラン語とポルトガル語が分裂します。

前ルーマニア語がルーマニア語となります。

アフリカンロマンスはここで消滅します。

カスティーリャ語がスペイン語と呼ばれるようにもなり、メキシコ南部や南アメリカ大陸北部に広がり始めます。

イタロロマンスからイタリア語ができます。これはトスカナ語という

ルネサンスラテン語が新ラテン語となります。

ウイ語はフランス語へ変化します。

モサラベ語は消滅します。

ハイチ・クレオールができます。

まぁ、歴史学の考えから言えば完全な通史というものを記述するのは多くの理由から不可能に近いんですね。だから、今のはあくまで知的好奇心を満たすというか、そういう背景があるのか、と知る材料に過ぎません。

【参考文献】

スペイン語からルーマニア語へ　伊藤太吾

まずはこれだけルーマニア語　鈴木信吾　菅井健太

しっかり学ぶ初級ラテン語　山下太郎

世界の言語シリーズイタリア語　菊池正和　Giulio Antonio Bertelli

世界の言語シリーズポルトガル語　平田恵津子　鳥居玲奈　ロジェリオ・アキチ・デゼン

ニューエクスプレスカタルーニャ語　田澤耕

これならわかるフランス語文法　六鹿豊

現代オック語文法　多田和子